

地域学校協働活動の推進について

— 「くろかわ地育リーダーズ」の取組 —

白川町教育委員会

1 はじめに

本町には4つの小学校と3つの中学校があり、どの学校もコミュニティスクールに指定されている。学校運営協議会の設置は黒川小学校と黒川中学校で黒川小中学校運営協議会を、佐見小学校と佐見中学校で佐見小中学校運営協議会を設置し、白川小学校、蘇原小学校、白川中学校はそれぞれ単独の学校運営協議会を設置している。年に数回の会議を行い、学校運営構想や学校評価を説明したり、学校教育活動に必要な援助をお願いしたりしている。

本町の学校は特色のある教育活動を行っているが、その過程において地域との連携が欠かせない。地域力を生かして特色ある教育、その学校ならではの伝統ある教育が進められている。その進め方は、学校経営構想に基づき、各教育活動の担当者が地域の指導者と連絡を取ったり、中間に教頭が入って地域の指導者と連絡を取ったりすることがほとんどであった。学校運営協議会はあっても地域学校協働活動本部を組織していないためにこのような手続きになっている。もちろんこの方法でも十分な成果が得られている。しかし、学校職員が異動すると、トラブルとまではいかないが、学校と地域指導者との連携がうまくいかないこともあった。

教育委員会ではかねてより学校運営協議会の設置と共に地域学校協働活動の推進を目指してはいたが、そのための仕組みづくり、活動計画、予算化がなされておらず、具体的な動きが作り出せなかった。

そこで令和2年度は、「できることからやっつけよう」という精神で、地域指導者が豊富な黒川地区をモデルとして実践を開始することにした。

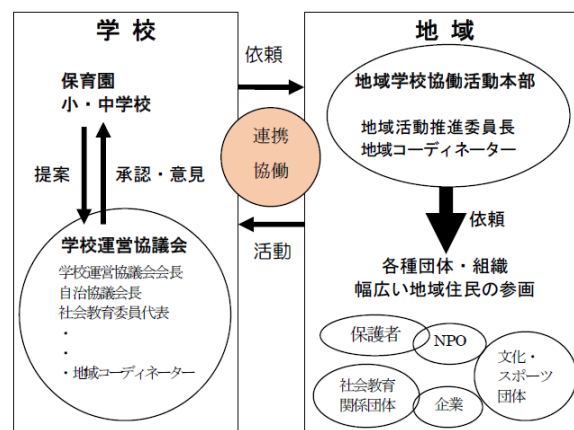
2 仕組みづくり ～ 黒川地域学校協働活動本部「くろかわ地育リーダーズ」の発足 ～

右図は令和2年度、黒川地区にできた地域学校協働活動本部の組織である。地域のもつ力を動員して地域全体で健やかな子どもの成長に関われることを願い、名称を「くろかわ地育リーダーズ」と付けられている。

学校と地域は「連携と協働」の関係を保つために、例えば学校が地域に何らかの依頼をする場合は、その内容を地域学校協働活動本部の委員長に相談すると、地域コーディネーターが保護者、社会教育団体、NPO、企業等の団体に依頼し、教育活動に参画できるようにしている。

学校運営協議会との連携は、会長と地域アドバイザーが両組織に位置づくことによってスムーズに保たれている。

<組織>



3 活動内容・計画

くろかわ地育リーダーズの場合、学校支援部、校外学習支援部、地域活動支援部の3つの部会があり、年間を通して多くの活動が計画されている。

学校支援部：読み聞かせ、部活動、授業補助（ミシン、木工など）、園芸・野菜作り、地域の名人の授業、一緒に掃除・給食

校外学習支援部：むかし遊び、職場体験の受入れ、黒川発見ウォークの補助、放課後児童クラブ

地域活動支援部：夏祭りへの参加・清掃、NPO活動参加、公民館祭り参加、地域の祭礼・伝統行事、一緒に地域清掃

4 実践例

(1) 町探検：小2（町の人と仲良くなるう）

町探検の学習では、地域の人々と仲良くなることを目的としている。「くろかわ地育リーダーズ」に黒川地内で子どもたちに仲良くなってほしい人を紹介していただき、町探検を行った。

学校だけでは選ぶことのできない、黒川ならではの方と交流することができた。学んだ成果は、授業参観で保護者に発表するため、わかりやすく伝えようとクイズ形式にするなど工夫して発表することができた。



(2) 防災キャンプ：小6（地域の方との交流）

今年度、修学旅行に代わり黒川防災キャンプを行った。その際、室町時代のわびさびを体験したいという児童の要望に応え、「くろかわ地育リーダーズ」の協力により、茶道・華道体験の講師を依頼した。また、夕食作りには黒川の農家の方に黒川産有機米を使ったかまど炊き体験を、星座の得意な黒川の方には夜の星空観察会をしていただいた。

黒川の土地で魅力的な活動ができたこと、それを支える地域の方に魅力を感じることができたこと、目の前で見た美しい夕日や星空に感動したことなど、さらに黒川のふるさとを守っていきたいと感じることができる取組になった。



(3) 植樹体験：全小学生（ボランティア活動）

「くろかわ地育リーダーズ」の依頼により、黒川地区への植樹ボランティアの活動に小学生（希望者）が参加している。

自分から進んでボランティアに申し込むことや、参加証を配布し黒川のために活躍しようとする人材を育成している。



(4) 職場体験：中2（新規体験先の開発）

コロナ禍で職場体験学習が例年のように実施できない中学校も多かった。

「くろかわ地育リーダーズ」では感染防止対策を実施しながら、子どもたちに夢に近い体験を実施してやりたいと思い、夢と体験先とを照らし合わせながら、体験先の再検討をした。

農園のラジオ収録、役場の地籍調査、アマゴの飼育など、新規の受け入れ先も探し、調整し、子どもも学校も驚くような新しい体験先を紹介することができ、その満足度も高かった。



5 今後の課題

- ・本年度はコロナ禍で活動に制限がかかり、計画どおりに進められなかったことも多いが、地域の協力が得られ、予想以上に深みのある活動になった。本年度の活動を振り返りながら、次年度、さらに充実したものにしていきたい。
- ・黒川地区の活動を参考に、地域学校協働活動を全町へ広めていかねばならない。その際、単純に黒川地区の実践を真似するのではなく、各地域のこれまでの活動を基に、各地域に合った組織（人）を作っていくことが必要である。また、コーディネーターを統括する役割も必要である。